

今回もOSBEELS（オレゴン州試験ボード）のウェブサイトに掲載されている、Examinations & Qualifications Committee（試験資格審査委員会）の議題・議事録から気になるトピックをお知らせします。今回は2012年6月15日及び8月10日の議事録が対象となります。

(6月15日)

- 委員会では、Oregon Administrative Rule (OAR) 820-010-0635(5)(f)の「active participation」と、OAR 820-010-0635(3)(k)の「attendance」の違いについて、前者はプロフェッショナル或いは技術に関連する協会、委員会、役員会などに深く関わっていることを言い、後者は単に、ある組織の委員会、或いは一般的なビジネス会合に参加することを言う、と明確にした。前者はPDHになる活動、後者はならない活動です。以下のリンクで、PDHになる活動、ならない活動を今一度確認しておきましょう。
http://arcweb.sos.state.or.us/pages/rules/bulletin/0611_bulletin/0611_ch820_bulletin.html
- National Council of Examiners for Engineering and Surveying (NCEES) の採点、及び不合格者の診断レポートを作成するソフトに異常があったというNCEESからの情報に基づき調査したところ、2011年4月及び11月の試験に際し、2名のOregon州の受験者に影響があったと判明した。委員会は、本件を法務へ回すことを決定した。2014年以降の、コンピュータ・ベース試験が心配になりますね。
- 委員会は、NCEESが5月1日に発表した、PEのIndustrial試験の仕様変更を今年の10月から来年の4月に先送りする、という記事をレビューした。

Comity (他州エンジニア) 申請

- Electrical engineer

NCEESの公式資格評価では数学/基礎科学が1単位不足、追加でNCEESのFEとPE試験にそれぞれ2008年10月と2010年4月に合格しているとのCalifornia州の公式証明、及び7年7か月のエンジニアリング経験の詳細記録と5名のリファレンスを提出

⇒ Comity不許可。但し不足の1単位取得、或いは4年5か月のエンジニアリング経験により許可されうる。

- Civil engineer

Idaho州ボードで懲罰措置を受けていた。・ Comity許可。調査過程で、別のエンジニアもIdaho州ボードで懲罰措置を受けており、ライセンス取消となっていたが、OSBEELでその措置を把握しているという記録がなく、1999年以来継続してOregon州で登録されていることが判明したので、調査することとなった。

- Civil engineer

2000年5月のcivil engineeringのcollege卒業証明書、NCEESのFE試験に2001年4月に合格してい

るとのMontana州の公式証明、PE試験に2005年4月に合格しているとのWashington州の公式証明、及び11年6か月のエンジニアリング経験の詳細記録と5名のリファレンスを提出

⇒ Comity不許可。但し6か月のエンジニアリング経験により許可されうる。

- Mechanical engineer

リファレンスの数を減らすよう要望書を提出。また1994年5月のmechanical engineeringでの学位証明、1989年秋～1992年春の学習課程の公式証明、1996年春～2001年春の学習課程の公式証明を提出。更にNCEESのFEとPE試験にそれぞれ1994年4月と2008年4月に合格しているとのIllinois州の公式証明、及び12年以上のエンジニアリング経験の詳細記録と、2名の登録プロフェッショナルによるリファレンス、5名の非登録者によるリファレンスを提出

⇒ Comity許可。

- Civil engineer

NCEESの公式資格評価では一般教養が10単位不足、追加で2003年5月のcivil engineeringの修士号証明を提出。更にNCEESのFEとPE試験にそれぞれ2004年10月と2008年4月に合格しているとのCalifornia州の公式証明、及び6年11か月のエンジニアリング経験の詳細記録と5名のリファレンスを提出

⇒ Comity許可。

Examination (受験) 申請

- FE試験

NCEESの公式資格評価では数学と基礎科学が9単位不足、追加で6年7か月のエンジニアリング経験の詳細記録と3名のリファレンスを提出

⇒ 受験不許可。但し不足の9単位取得、或いは1年5か月のエンジニアリング経験により許可されうる。

Continuing Professional Development (CPD) 監査

2012年1月の監査で、20名が期限までに回答しなかったため、Regulation Departmentに照会となる。この中に、日本人Shoji Hamayaの名前がある。

(8月10日)

- 委員会では、2013年4月から開始されるsoftware engineeringのPE試験に関するNCEESのニュースリリースをレビューした。また2013年の4月に、このsoftware engineeringを、ボードによって試験及び資格発行する科目として今回追加するかどうか検討した。その結果、OAR 820-010-0450にのっとり、請願書を受け取った時点で再検討することとした。The Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) は、各州ボードが資格者に対して将来支援するための助けとなるように、“Software Engineering Practice Standards Licensure Guide”という題名の書類を起稿した。
- 委員会では、現在「retired」となっており「active」に復帰する意図のない者に対して、professional land surveyingの証明書を再発行してもよいか検討した。彼は、子供や孫に、「個人的な家族史の記

念]として、記念となるものを与えたい、と願っている。これによる法的な影響などを調査することとなった。

Comity (他州エンジニア) 申請

- Civil engineer

Florida州ボードで懲罰措置を受けている。また、New York、Wisconsin及びVirginia各州でも、Florida州の懲罰措置に準ずる相互措置として懲罰措置を受けている。

⇒Wisconsin州での懲罰措置の現状について、更に調査を進め、本件につき2012年10月の委員会ミーティングで議論することとする。

- Civil engineer

Nevada州ボードで懲罰措置を受けている。申請者本人と懲罰措置について議論 ⇒ Comity許可。

- Mechanical engineer

1964年6月のmechanical engineeringでの学位証明、少なくとも4年のエンジニアリング経験の詳細記録、5名のリファレンス、NCEESのFE試験に1967年10月に合格しているとのMissouri州の証明、及びMissouri州独自のmechanical科目でのPE試験に1968年10月に合格しているとの証明、また1968年10月における、Missouri州のmechanical PE試験とNCEESの試験が同等である、とのMissouri州の文書を合せて提出

⇒ Comity許可。

Examination (受験) 申請

- PE試験 (科目不明)

FE試験時に、受験資格証明に必要な書類を全て提出できなかったため、教育と経験の組合せにより受験資格を得た。彼は当時のプロセスを誤解しており、当時提出できなかった書類を提出し、それにより教育のみによりFE受験資格を得たこととして、PE試験に必要な経験年数を、先のFE受験時にカウントしたものを加えることにより稼ごうとしていた

⇒彼の要望を検討するために、まずはPE試験の申請をするよう促した。

- PE試験 (Civil)

2008年5月のCivil engineeringの学位証明、2010年5月のcivil and environmental engineeringの修士号証明、NCEESのFE試験に2007年10月に合格しているとのWisconsin州の証明、少なくとも4年のcivilエンジニアリング経験の詳細記録、及び3年5か月のcivilエンジニアリング経験を証明する5名のリファレンスを合せて提出

⇒ 受験許可。

- PE試験 (Mechanical)

1999年6月の数学の学位証明、2008年6月のmechanical engineeringの修士号証明、3つのcollege/universityでの学習課程の公式証明を提出。合せて、NCEESのFE試験に2008年10月に合格

しているとのWashington州の証明、4年3か月のcivilエンジニアリング経験の詳細記録、及び6名のリファレンスを合せて提出

⇒ 2013年4月試験の申請を提出し申請料を支払うよう通達

- FE試験

NCEESの受験資格評価では、彼のmechanical engineeringの学位が、一般化学と微分方程式を含まないとのことで不十分と判定。7か月のエンジニアリング経験の詳細記録、及び1名のリファレンスを合せて提出

⇒ 受験不許可。但し、微分方程式の教育課程を修了することにより、将来受験資格を得る可能性がある。

- PE試験 (Control System)

リファレンスの数を減らすよう要望書を提出。また2007年5月のmechanical engineeringでの学位証明、NCEESのFE試験に2006年10月に合格しているとのMichigan州の公式証明、及び4年以上のcontrol systemエンジニアリング経験の詳細記録と、2年間の経験を証明する4名のリファレンスを提出

⇒ 要望書は認められず、受験不許可。但し、現在のリファレンスでカバーできない残りの経験を証明するリファレンス1通があれば、将来受験資格を得る可能性がある。

リファレンス

PE試験に際し、リファレンスの数を減らしてほしい、との要望が6件あった。委員会では、最低必要な4年の経験を証明できる限りにおいては、リファレンスの数を減らすことを検討してもよい、との観点から、6名全てについて受験許可した。

2度試験に不合格となった再申請者

OAR 820-010-0465に基づき、受験者の学習状況を評価した結果、18名の再申請者のうち2012年10月の受験許可を得た者が11名、2013年4月が6名、2013年10月が1名、となった。

Continuing Professional Development (CPD) 監査

- 2012年1月12日までの1年間の猶予期間を申請した者が3名おり、許可された。
- 2012年1月の監査で、1名が期限までに回答しなかったため、Regulation Departmentに照会となる。